

## 12 片方信也日本福祉大学教授の退職を祝して

天野 早人

日本福祉大学情報社会科学部  
情報社会科学科 2000 年度卒業生  
(宮田村議会議員)

2014 年 3 月をもって、日本福祉大学の片方信也教授が退職を迎えられることになった。片方教授は岩手県の生まれで、北海道大学と京都大学大学院で学ばれたあと、京都大学助手を経て、1995 年から日本福祉大学で教鞭をとられてきた。都市計画や建築計画の分野で大いに活躍されてきており、参考人として国会の場でも意見を述べられている。

この間、日本福祉大学の片方研究室を巣立った卒業生は 134 名におよび、まもなく最後の卒業生がその仲間に加わることになる。かくいうわたくしも、片方研究室の第 3 期生として、教授にたいへんお世話になった一人である。

特に、日本福祉大学地域づくりプロジェクトの活動が印象に残っている。1998 年 4 月に、まちづくりを実践的に学ぶことを目的として、学生主導で発足した組織である。当時わたくしは、このプロジェクトの責任者であり、片方教授にはその顧問をお引き受けいただいた。

ふるさと長野県宮田村で、まちづくりに関するフィールドワークを行い、それを宮田村への提言としてまとめるこ

とが、プロジェクトの最初の目標であった。そして、このプロジェクトが取り組んださまざまな活動が、やがて宮田村と日本福祉大学との友好協力宣言の締結につながり、2011年には締結10周年の記念式典が開催された。

プロジェクトの発足から15年が経過した今日でも、宮田村と日本福祉大学の取り組みは進化をつづけており、より一層の拡大が期待されている。片方教授の退職にあたり、これまでの経過を整理しながら考察を加えることが、わたくしにとっての喫緊の課題である。

片方教授に関する思い出は、プロジェクトのことだけではない。研究について厳しくも暖かいご指導をいただいたこと、宮田村でまちづくりの講演をしていただいたこと、アカデミックな切り口で京都を案内していただいたこと、飲みながら議員のあるべき姿についてご教授いただいたことなど、枚挙にいとまがない。そうした交流をとおして、わたくしは片方教授から多くのことを学んだ。

これまでの学恩をふりかえる中で、片方教授の退職を祝う企画を練りはじめたのは、2013年の秋を過ぎた頃である。短い準備期間の中で、最終講義等の開催や記念誌の発行を実現できるのは、同期の仲間である長野瞳氏と藤本貴史氏、そして片方研究室最後の卒業生となる現役学生の皆様のご尽力によるところが大きい。

今回の退職記念行事を契機として、ダンディな片方教授のますますのご健勝とご活躍を切に願いたいと思う。